



復刊第134号
題字 吉岡弥生

巻頭言

副会長
会議組織委員長
佐藤千代子

友よいざ 国際会議をもり立てん
日本女医の 力示して
三神美和

冒頭の短歌は、西太平洋地域会議

の準備に緊迫感を深めて参りました
この頃、三神名誉会長から山崎会長
へ賜りました歌です。ひとひらの紙
にこめられました先生のお心は、私
どもの胸に千鈞の重みをもってひび



第5回国際女医学会 西太平洋地域会議

5th Western Pacific
Regional Conference
of the
Medical Women's
International Association

きました。日本女医学会の名譽にかけ
て!!と一同ひとしく感激し、がんば
らなくてはと誓いを新たにしました
次第でございます。

お蔭様で一月末日現在、二五〇名
(外国会員を含む)の登録となりま
した。予定の三五〇名まであと一息
というところでございます。想い起
しますと、一九七六年(昭五十二年)
東京で開催されました第十五回国際
女医学会は参加国二十九国、参加人員
一一二九名、うち外国会員四四四名、
日本女医学会員六四〇名でした。もち
ろん、会議の規模も全世界であり、
会期も五日間。ちなみにその時の登
録費は国内会員が第一次四万四千円、
第二次五万円であり、倍の会期とは
いえ十七年前としては結構高額であ
ったと思います。しかしコンピュータ
ターもコピー機も無かった当時(私
の担当したデイリーニュースはホテ
ルの一室で深夜、謄写版で刷りまし
た)、準備はほとんど手作りであつた
にもかかわらず、参加者全員から立
派な会議でしたと賞賛されたことは
今さらながら三神会長を中心に全会
員が結束し努力した賜であつたと感
慨を深く致しております。

当時の状況と比べて、今回の会議
の運営費用が充足できるかどうか心
配しておりましたが、会員皆様から
の熱いご寄付をいただきました本当
に嬉しゅうございました。そしてパ
ブル崩壊後、経済の好転が望めない
現状にもかかわらず、企業からのご
寄付、日本医師会、京都府、京都市、

もくじ

巻頭言.....	佐藤千代子 (1)
祝叙勲・森川みどり先生.....	(2)
支部だより	
愛知支部だより.....	伊藤 二藤 (3)
市民大使プログラムについて.....	野本 昭子 (3)
私の大学	
長崎大学医学部.....	河合紀生子 (4)
出生率低下に因んで.....	稲生 襄 (4)
NHKふるさと賞を頂いて.....	松山 京子 (5)
書評.....	小出つる子 (5)
理事会議事録.....	(5)
会員動静.....	(6)
編集後記.....	(6)

万博協会からもご寄付をいただくこ
とが出来まして、経費不安に対する
愁眉を開くことが出来ましたことを
厚くお礼申し上げます。

ただ、会議成功の主軸は何と申し
ましても多勢のご参加をいただくこ
とでございます。組織委員会と致し
ましては毎月の全体会議、何回かの
各都会議、現地での検討会を重ね、
ようやく会議の構想の骨組が見えて
参りましたところです。あとは多く
の方の登録という太い梁で支えなけ

れば、立派な家(会議)を作ること
は不可能でございます。五月の予定
を決めかねていらつしやいます会員
の方もおありのことと存じますが、
十八年に一回の日本での会議にぜひ
ご参加くださいますようお願い致し
ます。

会議のメインであります学術プロ
グラムも学術部委員のご尽力で立派
な内容となりました。基調講演、ワ
ークショップ、一般演題、ともに医
師として、また女性としての視点も

交え、先見性に富み洞察力にみちた論議が展開されることと期待しています。日本の誇る高度医療機器による先端技術紹介を主とした病院見学(外国会員優先)も予定されており

社交行事もインターナショナルの夜、京都情緒溢れる伝統文化の夜など皆様にきつとお楽しみいただけます。そして会議の最大の目的は、世界の女医が宇宙の生物共存を理念に平

和と人類の幸せのために手を繋ぐことを願って西太平洋地域会議からメッセージを発進することだと思えます。日本女医学会創立九〇周年、皇太子ご成婚、この素晴らしい年の会議です。

国際女医会 西太平洋地域会議 準備状況 (平成5年1月末日現在)

本部・国際役員室・事務局.....ホテル京阪2F 桜の間

Table with columns: 時刻, プログラム, 会場. Rows include 19, 20, 21, 22, 23 with various events like registration, lectures, and social activities.

日本女医学会 総会

Table with columns: 時刻, プログラム, 会場. Rows include 23 with sessions like the council meeting and general assembly.

支部だより

愛知支部だより

平成五年の年始めには皇太子妃が内定遊ばされ、喜ばしい限りでございます。

愛知支部は昭和三十八年十二月に結成されました。以来森川みどり支部長を先頭に多くの会員が同窓の分け隔てなく和をもって多方面の活動を致して参りました。

平成五年の年始めには皇太子妃が内定遊ばされ、喜ばしい限りでございます。

この事業に対して、昭和五十四年十二月二十日日本公衆衛生協会賞(団体賞)受賞。平成二年三月二十日愛知県知事表彰を受けました。

平成五年の年始めには皇太子妃が内定遊ばされ、喜ばしい限りでございます。

また愛知県医師会主催の健康フェスティバル'92に協賛し健康相談部を受けもちました。

伊藤 二葉

「性皮膚炎」、北井曉子会員が「エイズ」についてそれぞれ出演致しました。同じくテレビ愛知のホームヘルスという番組にも加茂裕子理事が「新学期を前に、近藤和子理事が「インフルエンザ」、田中永子会員が「しもやけ」について出演致しました。

「市民プログラム」は、一九五六年に米国のアイゼンハワー大統領によって創設された市民活動の一つであり、あらゆる国の市民間の交流によって相互理解を深め、個人個人が市民大使として親善に努めることを目的としています。

安および蘇州を訪ねましたが、日時都合がつかず、残念ながら交流を果たすことができませんでした。

祝叙勲 勲五等瑞宝章 (平4.11.4) 森川みどり先生



森川みどり先生は昭和三年、東京女子医学専門学校をご卒業、昭和十年眼科医局を開業され、診療所前道路に患者整理のため警官が出る程の状況で活躍、爾来八十六歳の現在まで、先生を慕って来院する患者のため診療を続けていられる。

森川みどり先生は昭和三年、東京女子医学専門学校をご卒業、昭和十年眼科医局を開業され、診療所前道路に患者整理のため警官が出る程の状況で活躍、爾来八十六歳の現在まで、先生を慕って来院する患者のため診療を続けていられる。

「日本に於ける百歳老人について」 愛知医科大学 加齢医学研究所

「二十一世紀の環境と健康リスク」 東京大学医学部 疫学教室

市民大使プログラムについて

渉外部 野本照子

期間 本年10月9日~22日 スケジュール 10月9日(土) ロシア・聖ペテルスブルグ 12日モスクワへ 16日リガ・ラトヴィアへ 19日ヴィルニウス・リトニアへ 22日(金) 帰国

私の大学「長崎大学医学部」

長崎支部 河合紀生子

一八五七(安政四)年十一月十二日、オランダの海軍軍医ポンペ・ファン・メルデルフオールトが長崎奉行所西役所において、日本ではじめて体系的西洋医学の講義をはじめた。この日長崎大学医学部が誕生した。まもなく、ポンペは医学伝習所に移り、医学の講義を続け、一八六一年(文久元)年、日本最初の洋式病院の小島養生所を設立し、隣りに医学部が新設され、本格的な医学部となった。

その後、いく多の名称の変更があり、長崎医学学校(一八七八、明治十一年)、長崎医学専門学校(一九〇二、明治三十四年)と改称され、一九二三年(大正十二年)、長崎医科大学に昇格したが、一九四五(昭和二十年)年原子爆弾が投下され、建物、施設は廃墟と化し、八百五十余名の職員、学生が被災した。戦後の学制改革で長崎大学医学部(一九四九、昭和二十四年)と改称され、先輩たちの努力によって現在の医学部に再興した。敷地内には原爆後障害医療研究施設、熱帯医学研究所、原爆医学資料センター、RIセンター、動物実験施設

などが新設、設置され、広範囲におよぶ研究活動が可能となった。また、一九八六年、国立大学はじめての腫瘍医学講座がスタートし、一九九〇年、専門分野別の広い共同実験室を有する地下一階地上八階の基礎研究棟が設立され、教育、研究施設が着々と整備、充実されてきた。さらに、昨年夏、創立百三十三周年を記念して、緑深いグビロケ丘の麓に竣工したポーンベ会館は同窓会員の交流や研究会の場として重宝されている。

教育、研究内容や制度に関しての改革も積極的にとりくまれ、全国に先駆けて自己点検、評価制度の導入や六年一貫教育カリキュラムの導入もすすめられ、自立性と社会性を身につけた責任感あふれる医師、科学的創造性を持った医学者を育てるという目標を前提とし、特色ある医学部づくりをめざしている。

このような教育研究組織の整備、充実とともに年々、当学部への女子学生の進出がめざましく、現在では九十九名(四百六十九名うち二十二名今春卒業)が在籍し、今年度は四十二名が合格している。これに比べて

卒後の女性管理職は少なく、その多くは助教、講師陣で、残念ながら女性の教授の誕生は医学部創立以来みられていない。しかし、毎年、優秀な卒業生に授与されるポンベ賞は昨年、今年度とおのおの三名の女子

出生率低下に因んで

神奈川支部 稲生 裏

平成四年十月、三越劇場でのお芝居「愛と胡瓜」を観て、つくづく考えさせられた。このことは私が園医をしている保育園の卒園文集に親ごさん向けに書いたが、女医会の会員の皆さんにもぜひお伝えしたくて、ペンをとった。

さて、お芝居のストーリーであるが、あばずれ娘ながら二十余年育てた娘をもらってくれる人があり、結婚式も済んで、やれやれと思った二人。これからは離婚して好きなことをやりましようと話しかけているところへ、新婚旅行から帰ってきた娘が、両親に手をついて「夫から両親に謝って来いといわれてきました。長い間お二人にご迷惑をかけて相済みませんでした。これからは仲良く好きなことをやって下さい」と。別れる筈の夫婦は離婚届を破ってめでたしめでたしというわけ。好き合っ

学生がその荣誉を授かり、今後の彼女たちの活躍が待たれる。また、百三十有余年の歴史と伝統をもつ長崎大学医学部が来たるべき二十一世紀に向けてより質の高い発展を遂げることを期待する。

子供は大変に手のかかるものだが育児は楽しいものであると思っている。しかし私は一児をもつ母親に「二、三人は育てて下さいね」とよくいうが、「いやいや、もう一人でこりこりです」という返事がかえってくる。保育園の保母さんたちに昔の歌に「白金も黄金も玉も何せんにもまされる宝子にしかめやも」というのがありますよと言っても、ケゲンを顔をしているだけである。昔は子供は授かるというだけだが今の人はこしらえるというふうだ。

私よりやや若い耳鼻科の女医さんで、六人お子さんがいらっしやるの



られている。

平成五年一月一日の朝日新聞に、「出生、また戦後最低」と出ており、出生数は九一年は一六六〇人増加し七三年以来減少していた出生数が十八年振りに増加したと思ったところ九二年には再び減少して前年より一〇〇〇減になった。出生率は現在一・五三とのことであるが、十年後にはもともと減少するのではと危ぶまれている、ということである。

若い母親が楽しんで育児にとりくめるような環境がどうやったらできるのか、なかなかむずかしい問題ではあるが、会員の先生方もぜひお知恵をしばってほしいものである。

書評

「回想のハルピン」

高知支部 小出 つる子

いろいろ雑誌の私ですが、今回読んで本が洗われるような気がしました。それは、

「回想のハルピン」ある女医の激動の記録―山崎倫子著(牧羊社)―

私の血縁のものもいろいろな方面でハルピンに行っていたことも多く(五、六名はある)母も姉もハルピンへ遊びに行っていたにはきいていて、キタイスカヤ街など手にとるように話題としてきいていました。

また敗戦時の引揚の苦勞など友人やいろいろな本をみたりして知っているつもりでした。日本人にとって天国のハルピンと地獄のハルピンを、そして表からのハルピンと裏からのハルピンを想像していました。

その間(ハザマ)にあつて、つまり天と地の間で、自身の生き抜くことより、満州人、ソ連人、中国人、日本人を守る仕事と、医者としての仕事に、時には図太く、時にはデリケートに、歴史には残らないでし

NHKふるさと賞を頂いて

宮城支部 松山京子

私は昭和二十年末、大河原保健所を退職して、疎開先の無医村の山中に開業いたしました。

八、六畳の二間が私の開業医としての第一歩でした。この部落は三方が山に囲まれて、どこへ往診するのにも地下足袋を穿いての徒歩か、馬の背に腰かけ、古いカバンを肩から下

げての往診スタイルでした。仙台に安く土地を求めて、住宅金融公庫の第一号で借金して小さな平屋建の家を建てて、夫と三人の子供を仙台へ移し、私の単身赴任の生活が始まりました。土曜日の午後、お米、野菜、玉子など患者さんからいただいたものを提げて、仙台へ帰る

ようが一杯若いエネルギーを投入して掃蕩された著者の幅の広さに驚き、感心してしまいました。

何度くりかえして読んでも興味深く、座右の書ではないけれど手はなせない本になりました。

スパイ大作戦もどきの二十万円奪回運動、おかしくなったり泣いたりした。

第二次大戦を知っている人も知らない人にも感動をあたえる一書だと思います。

そんなデッカイ人であった山崎さんと二十年前には会則に違反しているというところで大喧嘩したのは彼女にとつてはノミがたかっくらいだっただなと自ら笑ってしまっています。

昭和二十四年四月、金ヶ瀬村の村長様、その他おもだった人々のたびたびの訪問に負けて、当地に移転してまいりました。建ったばかりの民家が売りに出されたのを、敷地とも十五万円で買とり(借金して)、私と看護婦一人、炊事係一人の生活が始まりました。

校医として小中学校二校を受けもちました。身検をして驚いたことは、トラホーム22%、回虫30%、その上顔色が蒼白な子を検便(県衛生課に依頼)しましたところ、なんと鉤虫が33%もありました。役場と県の応援をいただいて駆除しましたが昭和二十五年には県下で一位の健康優良校として表彰されました。

昭和三十五、六年ごろから、農村にも外国風の食事が入ってきて、ポソツソ肥満児童がふえ始めました。そこで標準体重30%以上肥満の子供と母親を集めて肥満教室を開き、町の栄養士や養護の先生方の援助を受けて子供と母親の教育を始め、好成績をおさめることができました。現在は成人病対策にとりくんで、あちこちに講演に歩いております。

昨年NHKが企画された「安心を届けたい」というタイトルで東北六県で放映されました。田舎に四十数年引きこもっておりました老医が、いきなりライトのまばゆい場所に引き出されて面喰らっておりますところへ、去る三月二十二日、NHKから「NHKふるさと賞」をいただき

に、まだあつても良いとおっしゃる方がいる。自分は子供を産むしか能力がないからとおっしゃるが、もちろん医者もちゃんとやっていますし、いつも身ざれいで、奇術などなかなかの趣味もこなしている。上の子が下の子を次々と面倒をみるので、あまり手がからないとおっしゃる。

世の中はいろいろいいとは思いますが、昔は美德とされていた我慢とか忍耐といったものはどこへ行ってしまったのだろうか。わがままで利己主義の今の母親は、子供が自分の思うようにならないからと、いじめ、虐待する人がいるそうである。子供を自分と同じ位置にしているから、そうなるのだろうか。自分だって随分親に迷惑をかけ、どんなにこずらせたか知れないのに、それは欄にあげて、わが子が思うようにならないからと虐待するのは、なんとも仕様がな。

人生のほんの一時期を辛抱すれば小和田雅子さまや若・貴兄弟のようになすばらしい子供が恵まれるかもしれないのに。

もちろん子育てだけが人生の最高目標ではない。健康上やさまざまな事情でお子さんがいらっしやらない方は、それぞれの道で自分を磨き、世の中の第一線に立って活躍なされば、これもまたよき人生と思ふ。

前述のお芝居は、お子さんの居られない山善三さんの作であるが、さすがプロの作家だけあって、親子の情、夫婦の機微がみごとにとらえ

ただただ感激と恐縮で胸一杯でございます。幸い八十六歳の現在も、健康で耳もよく聞こえますので、故人となりました夫の「倒れて後己む」の志を継ぐつもりであります。

* 松山京子先生は昭和六十年日本女医学会吉岡弥生賞を授賞されております。なお昨年十月の放映は、東北六県のみローカル放送でしたが、好評だったので本年一月全国ネットの「ぐるり日本」で再度放映されました。(広報部)

理事会議事録

日時 平成5年1月24日(日)

場所 京都、新都ホテル「桂の間」

出席者

- 山崎 佐藤、白橋、野呂、青井、石原、稲生、白浜、中濱、二村、野本、橋川、橋本、平敷、川田、栗原、小出、佐々木、関口、田中、南雲、野澤、松井、丸茂、森田、吉崎、大原、松本(京都支部長)
- (以上28名)

欠席者

- 三好、明石、小田、佐野、土井、藤岡
- (以上6名)

庶務報告 南雲理事

以下、別紙とおり報告。――承認

会計報告 青井常任理事

平成4年12月分収支別紙とおり報告。

平成4年度12月分一般会計収支、

別紙どおり報告。

各部報告

〔広報部〕 稻生常任理事

・平成5年2月1日、一三三号会誌発行予定。

議事検討事項

一、平成5年度事業計画案及び予算案について

各部とも2月の常任理事会に計画案、予算案を提出する。

二、吉岡弥生賞、荻野吟子賞被推薦者について(二名の候補者あり。

吉岡弥生賞(社会に貢献した会員) 倉島撰子(中野支部)

荻野吟子賞 今野タイ(北海道支部)

各候補者の推薦者より候補者の紹介および推薦理由の説明あり。

三、西太平洋地域会議について 出席者(理事役員二十七名、京都支部六名、日本コンベンションサーブイス関西支社二名、JTB団体旅行京都支店一名)

〔京都支部〕松本文絵先生、石川知子先生、石崎富子先生、大野順子先生、大門公子先生、木暮美津子先生

〔日本コンベンションサーブイス〕吉野忠治様、香澤真美湖様

〔JTB団体旅行京都支店〕佐野良一様

山崎会長より挨拶。

佐藤組織委員長より挨拶、現状報告あり。

・登録者一八四名(平成5年1月21日現在)

・演題数 一七

・募金状況(平成5年1月10日現在) 会員 三二一件 七八九万二千元 一般 三件 三万円 薬品会社、企業 二七件 一〇八三万円 (合計) 一八七五万二千元

会議運営準備に関して打ち合わせ検討。

・別紙スケジュール予定表を参考に会議準備を進める(コンベンション)。

・登録者に宿泊のご案内を送付(JTB)。

・ホテル、会場までの道順、案内図の設置(JTB、コンベンション担当)。

・外人向けのパンフレット作成(JTB)。

・会議期間中、記録用・記念用写真を撮影(専門家に依頼)。

・5月20日(12時より5時)、病院見学。詳細は後日検討。

・5月20日ウエルカムパーティー後ナイトツアーを実施、参加費の有料、無料等詳細は後日検討。

・5月21日日本女医学会主催パーティーのアトラクションは京都支部に依頼。併せて徳島支部に阿波踊りを依頼する。

・ネームカードに各担当を明記する。

・受付時に参加者にお渡しするカバンの中身について確認。

以上

会員動静

副会長(庶務部担当) 佐藤、石原、二村、南雲、吉崎

新卒入会(敬称略)

埼玉支部 岡田千津子

高知支部 安井喜美

入会会員(敬称略)

青森支部 広岡鈴子

板橋支部 大谷 香

大田支部 藤岡和美

新宿支部 小玉洋子

谷口田枝 湯村和子

世田谷支部 蓮沼智子

中野支部 松本裕美

愛知支部 亀井信子

住田篤子 谷口アキ

築山規子 中野慧子

岐阜支部 今村智子

奈良支部 宮川幸子

大阪1支部 宮本貴子

兵庫支部 飯島尋子

山口支部 大草知子

徳島支部 佐藤和子

高知支部 竹村陽子

福岡支部 大庭美智子 岡田育子

亀井レイ子 岸本陽子

北野明子 倉富恭子

黒川美知子 田尻京子

手越静子 稗田慶子

安部かずみ 吉村皓子

退会会員(敬称略)

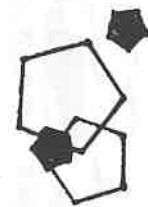
群馬支部 佐藤キサ 野村真世子

杉並支部 岸美佐

世田谷支部 白井潔子 豊島支部 三室静子 目黒支部 西塚百合子 山梨支部 熱海佐保子 静岡支部 鈴木みゆき 愛知支部 志水麻実子 大阪2支部 田仲みずす

橋本恵美子 和歌山支部 秋岡成美 物故者(敬称略) 宮城支部 松永操子 茨城支部 山崎純子 世田谷支部 及川富美子 広島支部 多田深雪

編集後記



編集の仕事というものは深く考えるときがありませぬ。配字、文字の大きさ、バランス等、楷書がいいか、ゴシックがいいか、明朝がいいか、編集の腕にかかっています。もちろん誤字、脱字は問題外のことですが、幸いにして現在当会が依頼している印刷屋さんには手なれた方々が多いのか、心づかいが十分なのか、校正が楽に仕上がって来ますのでありがたいことと思っております。

特に医学記事や原語の多い文章では印刷屋さんの苦心のあとが窺えます。投稿して下さる諸先生も、ワープロあり、なぐり書きあり(普通のレター用紙など)ご多忙の先生方に投稿をおねがいするのでからあまり無理もたのめませんし……でも馴れた印刷の方は十分きをつけてやって下さっているようです。

今後の誌面のビジョンとして会報にも少し心のゆとりをもたせたいと、つまり眼を休めるためのちよっとしたカットが入ったり、医師の心で作

平成5年4月20日 印刷
平成5年4月25日 発行
編集人 稲生 襄
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山官野ビル
社団法人 日本女医学会
〒二四九八-〇五七一
東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版